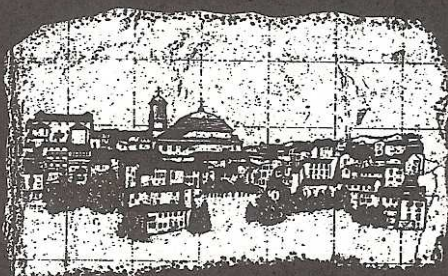
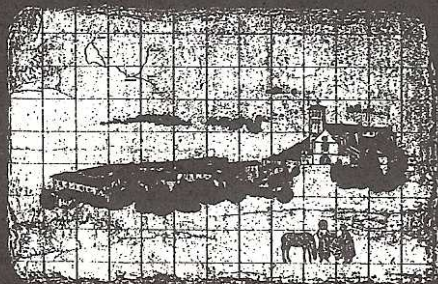
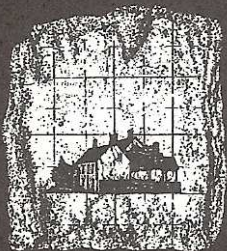
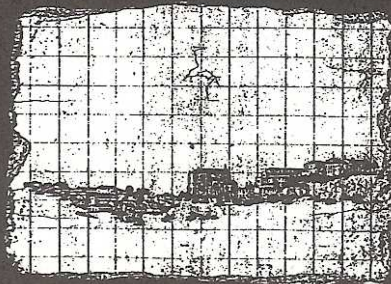


翔

百万石蝶談会

No. 135

December 1998



実在した菊水のクロシジミ標本

吉村久貴

石川県に生息するクロシジミの採集例は非常に少なく、いずれの記録も金沢市の日尾周辺（犀川上流）に限られている。かなり局地的な分布をしており、個体数も少ないものと考えられる。現存する標本もほとんど無く、ここ20年間は、全く記録されておらず、現在も生息しているかは確認されていない。

日尾周辺での再発見がなされないため、生息の可能性の高いのは菊水周辺と考え、本年（1998年）7月下旬に調査に出向いたりもしたが、小さなアブの襲撃を受け、クロシジミの発見どころではないような状況であった。以下は、根気よく調査を続けなければならないことを実感した矢先の出来事である。

筆者の勤める金沢二水高校では、金沢城内校舎での2年間の生活を終え、8月に新校舎への移転を完了した。この間、生物部の標本を見ることができなかった。9月になってダンボール箱から標本箱を出してみたところ、コルク張りの桐箱のため標本が搬送の際に跳ね回ったための破損、防虫剤切れのための虫食いがあり、ラベル不明の普通種・破損のひどいものを中心に、3割程度の標本を捨てることとし、標本の整理にとりかかった。

稀少種があればと期待感もあったが、ゼフィルスを中心としたシジミチョウの標本箱の中に、クロシジミの標本を2個体（いずれも黒色型の♀）発見した。以前より、生物部の活動が盛んであった泉丘高校か二水高校の標本に、記録性の高いものがあるかもしれないと思ったが、本当にものを目にするとは思わなかった。

ラベルには、

和名クロシジミ 1970年8月2日 金沢市菊水～堂 採集者は 鈴木

和名クロシジミ 1970年8月2日 金沢市菊水～堂 採集者は 土谷

と記されていた。

他の標本のラベルを調べたところ、同日・同場所では、オナガアゲハ夏型♂（破損）やアオバセセリ、サカハチチョウ、スミナガシ、アカタテハなどがあり、高校生によって採集された様子が目に浮かんだ。

金沢二水高校の生物部では、毎年、「ねこやなぎ」という名称の部誌を発行している。1970年度は第13号（昭和46年3月発行）を出している。数日後、古い部誌を別のダンボール箱から見つけた。その中に「堂・菊水方面採集成果」という記事が記されていた。以下は、その引用（抜粋）である。

「8月2日 曇り 天気があまりはっきりしない日であった。菊水の村はづれまでタクシーで行き、約2km程歩いた。最初に川原の石に止まっているサカハチチョウを捕らえた。次にアオバセセリが道に止まっていた。しばらくすると激しい雨が降ってきたので、川原で雨やどりをした。雨が止んでから、川の流れのゆるやかな所で、昼食を食べ、来た道を

引き返した。途中でクロシジミを捕らえた。クジャクチョウらしきものも見たが捕らえられず、村の中ではアカタテハ・スミナガシ等がいた。川原ではカラスアゲハ・オナガアゲハ等が水を飲んでいて、堂の小学校で休んで、風吹峠を越え鶴来に下り、バスで帰った。」

以上のように、クロシジミの標本が実在し、当時の部誌にもその採集記事が見い出された。現在、同窓会を通じて、採集者本人を調査中である。

《よしむら ひさき 〒920-0941 金沢市旭町3-21-16》

白山湯の谷のベニヒカゲ

久 慈 一 英

白山のベニヒカゲは、西限の産地として魅力的である。しかし、白山への登山となると1泊しないとつらいので、筆者は見たことがなかった。日帰りで簡単に白山のベニヒカゲが観察できることを松井正人氏から教えてもらい、入林許可証を携帯して8月1日に釈迦林道を湯の谷へと入った。

午前中は曇天であったが、日が射すと標高約1300m以上の谷筋に沿ってベニヒカゲが現れた。千仞滝のある谷に入ると、一角にお花畑がありベニヒカゲが多数飛び回っていた。クモマベニヒカゲもいると聞いていたが、時期が悪いためかとうとう見ることはなかった。昼頃になると天気が回復し、太陽がでてきた。するとセリ科の白い花(ミヤマシシウド?)にキベリタテハが飛んできてとまった。よく見ると辺りには、ダケカンバの小さな木がたくさんある。沢沿いの背の高い白い花にもキベリタテハが来ていた。午後には快晴となり、ベニヒカゲが谷沿いに乱舞するようになっていた。時期のためか、ベニヒカゲはほとんどが雄ばかりだった。筆者にとって、白山のベニヒカゲがこんなに多いのは意外であった。

白山国有林湯の谷への立ち入りに関しては、金沢営林署の方々に便宜をはかっていただいた。ここに深謝申し上げる。

1998年8月1日	白峰村白山湯の谷	ベニヒカゲ	多数目撃	久慈一英
”	”	キベリタテハ	2頭目撃	久慈一英

《参考文献》

吉岡 泉 (1984) 釈迦道(白山湯ノ谷)でのベニヒカゲの記録. 翔 (44) : 6-7.

松井 正人 (1994) 石川県のジャノメチョウ. 翔 (110) : 3-6.

《くじ いちえい 〒920-1161 金沢市鈴見台3丁目1-3》

医王山の蛾類記録

富 沢 章

金沢市医王山で灯火採集した蛾類、62種を確認することができたのでここに報告する。
採集品を提供していただいた松井正人氏に感謝する。

◆ 1998年8月20日 金沢市医王山（標高800m地点） 松井正人採集

メイガ科		12 ウスオビヒメエダシャク	1頭
1 マメノメイガ	1頭	13 キスジシロエダシャク	1頭
2 マエアカスカシノメイガ	1頭	14 ヨモギエダシャク	1頭
3 コブノメイガ	1頭	15 ホシミスジエダシャク	1頭
4 ヨツボシノメイガ	3頭	16 ナカキエダシャク	1頭
5 ワタヘリクロノメイガ	6頭	17 ウコンエダシャク	1頭
6 シロテンキノメイガ	5頭	オビガ科	
7 ウスキモンノメイガ	1頭	1 オビガ	1頭
8 ゴマダラノメイガ	2頭	カイコガ科	
9 モモノゴマダラノメイガ	1頭	1 オオクワゴモドキ	1頭
10 オオキノメイガ	1頭	シャチホコガ科	
11 ウコンノメイガ	8頭	1 アカシャチホコ	1頭
12 シロハラノメイガ	4頭	2 クビワシャチホコ	1頭
13 クロフトメイガ	4頭	3 シャチホコガ	1頭
トガリバ科		ドクガ科	
1 オオマエベニトガリバ	1頭	1 モンシロドクガ	1頭
2 モントガリバ	1頭	ヒトリガ科	
シャクガ科		1 ヨツボシホソバ	1頭
1 オオアヤシャク	1頭	2 スジモンヒトリ	1頭
2 カギシロスジアオシャク	1頭	ヤガ科	
3 フタシロスジナミシャク	1頭	1 ニッコウアオケンモン	3頭
4 クロスジアオナミシャク	1頭	2 スギタニゴマケンモン	1頭
5 ビロードナミシャク	1頭	3 オオケンモン	1頭
6 キイロナミシャク	1頭	4 タマナヤガ	4頭
7 バラシロエダシャク	1頭	5 マルモンシロガ	1頭
8 キリバエダシャク	1頭	6 ヒトテンヨトウ	1頭
9 ツマトビシロエダシャク	1頭	7 シロモンオビヨトウ	1頭
10 ゴマフキエダシャク	1頭	8 ヒメビスジヨトウ	1頭
11 ツマキリウスキエダシャク	1頭	9 キクキンウワバ	1頭

10 ミツモンキンウワバ	13頭	17 ヒメアケビコノハ	1頭
11 エゾギクキンウワバ	2頭	18 アケビコノハ	1頭
12 キシタバ	2頭	19 ムクゲコノハ	1頭
13 エゾベニシタバ	1頭	20 アカキリバ	1頭
14 ジョナスキシタバ	1頭	21 コウンモンクチバ	1頭
15 シロシタバ	1頭	22 オオシラホシアツバ	1頭
16 ムラサキアシプトクチバ	1頭		

医王山のチョウ類はよく調べられているが、蛾類は過去にカトカラ類が調べられたことがある程度で皆無に等しいのが現状であり、大型種だけでもデータを集積したいものである。今回得られたホシミスジエダシャクとヒメアケビコノハは県内2頭目の記録である。

《とみさわ あきら 〒923-0911 小松市大川町3丁目71》

石川県産蝶類の分布拡大と思われる事例

嵯峨井淳郎

筆者は家庭を持つまでは、金沢市森本地区（旧森本町）に住んでいた。その頃の蝶を見る目と現在の蝶を見る目とは、視点が随分違っているのは自他共に認めるところであるが、今回久し振りに森本地区における採集を試みた際に、若干の蝶類の分布拡大と思われる知見が得られたので、それらの種について報告する。

◆ミヤマカラスアゲハ

1998年5月10日 金沢市花園八幡 3♂目撃確認（内1♂採集） 筆者採集、保管
舗装された林道上の湿地で吸水していたが、森本在住の頃はカラスアゲハばかりで本種は見られなかった。

◆ウスバシロチョウ

1998年5月10日 金沢市四坊高坂 2♂2♀採集 筆者採集、保管
1987年、近傍の金沢市桐山川流域における分布拡大報告が存在するが、四坊高坂地内での採集は初記録と思われる。

《 参考文献 》

嵯峨井淳郎(1987)金沢市北部地域におけるウスバシロチョウ. 翔(65):3.

《さがい じゅんろう 〒921-8145 金沢市額谷3-18-2》

ニホンカモシカの死骸に群がる蝶類

嵯峨井淳郎

近年、採集行動中にニホンカモシカに出くわすことが多く、筆者の目撃事例は今年に入ってから20例を下らない。『特別天然記念物』指定による弊害と表現しても良いくらいに、本種はあまり人間を怖がらず、どこでもこのこと歩いているのを目にする。筆者宅のすぐ近くでも多数の目撃例がある。かと言って筆者宅は山中に有るわけではなく、かようにニホンカモシカが多いのである。

特に石川郡河内村板尾での採集調査時に多く目撃することができたが、そのためかどうかは定かではないが、斜面からの下降に失敗したと見られるニホンカモシカの死骸を2体、別々の日に発見した。その死骸に群がり吸汁中の多数の蝶類と一部甲虫を目撃したので、報告する。

◆1998年5月9日 石川郡河内村板尾

確認種 ミヤマカラスアゲハ (多数)、カラスアゲハ、ルリタテハ、スミナガシ、
イチモンジチョウ、サカハチチョウ

◆1998年6月8日 石川郡河内村板尾

確認種 ミヤマカラスアゲハ (多数)、ミスジチョウ、オオオサムシ、ハンミョウ、
ニワハンミョウ (多数)

これらの昆虫類は、あまりの臭さに全く手が出せず採集していないことを付記しておく。この原稿を草稿するだけでもあの悪臭を思い出し、気持ちが悪くなるくらいである。

《さがい じゅんろう 〒921-8145 金沢市額谷3-18-2》

能登地方でジョウザンミドリシジミを採集

松井正人

石川県からは17種のゼフィルスが知られているが、押水町宝達山以北からは7種が知られているに過ぎない。7種とはウラキンシジミ、アカシジミ、ミズイロオナガシジミ、アイノミドリシジミ、オオミドリシジミ、エゾミドリシジミ、ミドリシジミであり、今回8種目となるジョウザンミドリシジミを採集したので報告する。

◆1998年5月1日 押水町宝達山 (ほうだつざん) 1♀羽化 松井正人

1997年12月29日、山頂付近のミズナラの頂芽から6卵を採集し飼育したところ、エゾミドリシジミと本種が羽化した。

- ◆ 1998年6月18日 珠洲市宝立山（ほうりゅうざん） 1♀ 松井正人
山頂付近でなれないゼフ竿を振り回し、エゾミドリシジミ 4♂とともに採集した。

能登地方のゼフィルスについてはまだまだ調査不足と思われ、今後は現在よりも広い範囲で記録され、種類数も増える事が期待される。

《 参考文献 》

松井正人（1997）能登地方のゼフィルス．翔(129):1-2.

日吉芳朗（1997）輪島市での近年の蝶採集記録から．アカハネムシ(25):1-3.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

「 翔 」 在庫一掃セール

どれでも1冊100円。注文は「はがき」に号数と部数を記入のうえ、事務局まで連絡してください。代金は後払いで、送料ともども同封する請求書の金額を郵便振替で払い込みください。

号数(頁)	残数	号数(頁)	残数	号数(頁)	残数	号数(頁)	残数
62(10)	3	76(15)	15	90(13)	11	104(10)	5
63(10)	25	77(19)	13	91(13)	1	105(12)	2
64(12)	28	78(13)	12	92(15)	8	106(12)	4
65(16)	31	79(34)	27	93(11)	15	107(12)	4
66(12)	17	80(11)	14	94(11)	なし	108(14)	なし
67(12)	25	81(11)	17	95(11)	なし	109(10)	なし
68(11)	14	82(13)	5	96(11)	なし	110(10)	なし
69(11)	11	83(15)	10	97(23)	なし	111(12)	10
70(11)	14	84(11)	13	98(15)	2	112(14)	2
71(11)	21	85(11)	7	99(11)	6	113(12)	1
72(27)	4	86(11)	23	100(49)	なし	114(12)	3
73(11)	19	87(11)	12	101(10)	7	115(12)	1
74(11)	11	88(11)	12	102(10)	5	116(12)	1
75(11)	24	89(17)	8	103(10)	なし	117(10)	なし

Eメールの練習始まる

デジタル回線につながったパソコンが自宅にありながら使ったことが無かった指田氏、このほど職場にもつながり、最近では重い腰をあげてメールを打つ気になつてゐる。

蝶研フィールド復刊

六月号をもつて休刊していた「蝶研フィールド」、米谷編集長のもと十月号から復刊した。この号、故小路編集長の追悼文でギッシリ埋められている。

矢田氏、ウスイロに泣く

ツマグロヒヨウモンで当たりの矢田氏、次なる照準をウスイロコノマに定め、加賀市の西島を調査したが発見できず。ところが、翌日同地で松井氏が一頭採集。

アサギマダラ再捕獲目白押し

アサギのマーキングが盛んになつたおかげで、今年には各地で再捕獲の記録が生まれて

いる。そんな中、宝達山で九月二十六日にマーキングしたアサギマダラが十月二十五日に種子島で再捕獲された。放蝶者は松井氏で、今年には五百七十一頭にマークしている。

山岸眼科クリニックオープン

福井市にクリニックをオープンした山岸氏、ようやく好きな虫を生かせる時が来た。クリニックのシンボルには何をしようか聞いていないが、待合室はきつと楽しい場所に違いない。自宅は別で、福井市志比口一の七の一の三〇二号 ☎〇七七六―五二―二五六七

福田晴夫氏、石川昆虫館を見学

蝶類学会会長の福田氏が鹿児島からやつてきた。目的は鶴来の石川昆虫館の見学。誰かが招待したのか、噂を聞きつけてやつてきたのかは定かではない。

屏温泉エサケルス大会

十一月七日八日、松本市屏温泉で、総勢四十余名により、

酒あり、オークションありの虫屋の懇親会が開かれた。金沢には、野中世話人から案内があり、井村・江崎甲虫おもしろチームが参加した。

輪島の日吉芳朗氏復活

六十年代終わりから七十年代のはじめにかけて、蝶界で活躍した輪島の日吉氏、最近にわかに活動が活発化している。ホームグラウンドを輪島に置き、昨年のウランキンシジミ発見に続いて、今年にはツマグロヒヨウモンの発生地を発見。

今年には迷虫天国だったはず？

ツマグロヒヨウモンが大発生し、三重ではカバマダラも大発生。対馬ではなんだかんだとたくさん採れている。今年には迷虫天国と踏んでいたが、今のところウスイロコノマしか記録されていない。

額谷のツマグロHPに登場

額谷で発生したツマグロヒヨウモンがホームページに掲載されている。金沢大学の

北川章夫氏のご好意によるもので、たまらないくらいきれいに撮れています。アクセスは、<http://gras.ec.t.kanazawa-u.ac.jp>

時間を裂いてツマグロ調査

輪島のツマグロヒヨウモン発生地、訪れる度に日吉氏にお目にかかる。「今日は時間が無いので二時まで」等と言っているのに、毎日時間を見つけて通っているらしい。

例会の記録

十月八日(木)城南管工二階にて八時から開催。

ツマグロヒヨウモンの発生状況について、六月二十八日の笹川記録に始まり、各地での連続的記録、九月下旬の笹川ポイント、十月に入つての矢田ポイントが紹介された。今回は、噂の笹川氏が初出席。指田氏と息が合い、終始蝶の話で盛り上がった。

参加は、笹川、久慈、井村、指田、松井、中西、山岸、細沼、野中(TEL参加)の九人。

【表紙デザイン…小幡英典】

会員の動き・しゃべの動き

幻の昆虫標本、二水高校編
 泉ヶ丘高校と二水高校は金沢の名門校として並び称され、かつては生物部の活動は盛んであった。片や「セコイヤ」此方「ねこやなぎ」を發行し、昆虫相解明に華々しく活動していた。この二水高校の昆虫標本が吉村氏の手によって明かにされた。

平地に響くチツチゼミの声
 最近チツチゼミがやたらと平地で鳴いている。金沢の涌波でも鳴いていたが、昔はこんな近くには居なかったような気がする。ただ気付かなかっただけなのか、それとも分布が広がっているのか。

二頭目のシマゲンゴロウ
 県内では絶滅かと噂されていたシマゲンゴロウが再発見

されたのが二年前。追加記録とゲンゴチームは動いていたが確認できていなかった。ところが、最近穴水で二頭目が確認されたらしい。

Eメールのツマガグロ速報
 Eメールでツマガグロヒヨウモン情報が流れてきた。最初の頃は二〜三頭のかわいい記録が二十例程だったが、そのうち五十頭を越え、記録数も三十頭、四十頭とうなぎ登り、究極は発生地が発見だった。

御神木のたたり
 富沢氏、オオゴキブリを狙ってあちこちの神社に出没している。ある神社の御神木にマイタケが出ていて、おいしい思いをした氏は、オオゴキブリも居ないかとナタを振るつたところ、中から現れた

スズメバチに、ブスブスブスと3カ所刺されてしまった。
自宅の庭にツマガグロヒヨウモン
 嵯峨井氏、採集から帰ると庭のハーブでツマガグロ雌が吸蜜中。ただただ焦ってしまつて逃げられたとか。

久慈氏の庭にもツマガグロが
 ツマガグロにとりつかれた嵯峨井氏などと話していたが、久慈氏の庭にも雌が現れた。どうやら氏もすっかり魅入られてしまったようだ。

昆虫館ニュースはむしかご通信
 石川ふれあい昆虫館の情報誌「むしかご通信」が発刊された。八頁カラー印刷で、表紙はオオゴマダラの髪飾りを付けた皇太子妃のにこやかな写真で飾られている。

ジヨロウグモを捜して東へ西へ
 クモ屋の徳本氏、自宅付近のジヨロウグモを毎年観測しているが、今年是对馬や福岡まで調査に行くらしい。

翔

NO. 135

1998年12月1日発行

百万石蝶談会

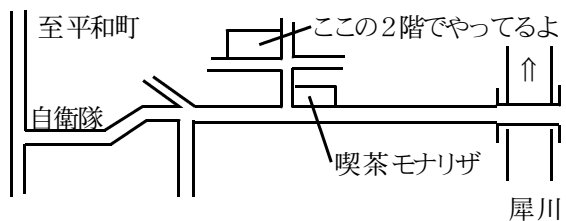
金沢市大場町東871-15 松井方

☎920-3121 ☎076-258-2727

郵便振替 00750-8-562

印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から
 TEL 参加もOKです (076-244-3318)



目 次 (135号)

吉村久貴：実在した菊水のクロシジミ標本	1
久慈一英：白山湯の谷のベニヒカゲ	2
富沢 章：医王山の蛾類記録	3
嵯峨井淳郎：石川県産蝶類の分布拡大と思われる事例	4
嵯峨井淳郎：ニホンカモシカの死骸に群がる蝶類	5
松井正人：能登地方でジョウザンミドリシジミを採集	5
編 集 部：「翔」在庫一掃セール	6
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き	8

